

井上毅著
佛國司法三職考

全

66

13

東京圖書

一	三	一	六		
冊	号	架	函	屬	類

036508-000-1

66-13

佛國司法三職考

井上毅著

M11

BBR-0240



大政官大書記官井上毅著

佛 國 司法三職考

明治十一年
二月刊行

畏三堂藏板



司法三職考序

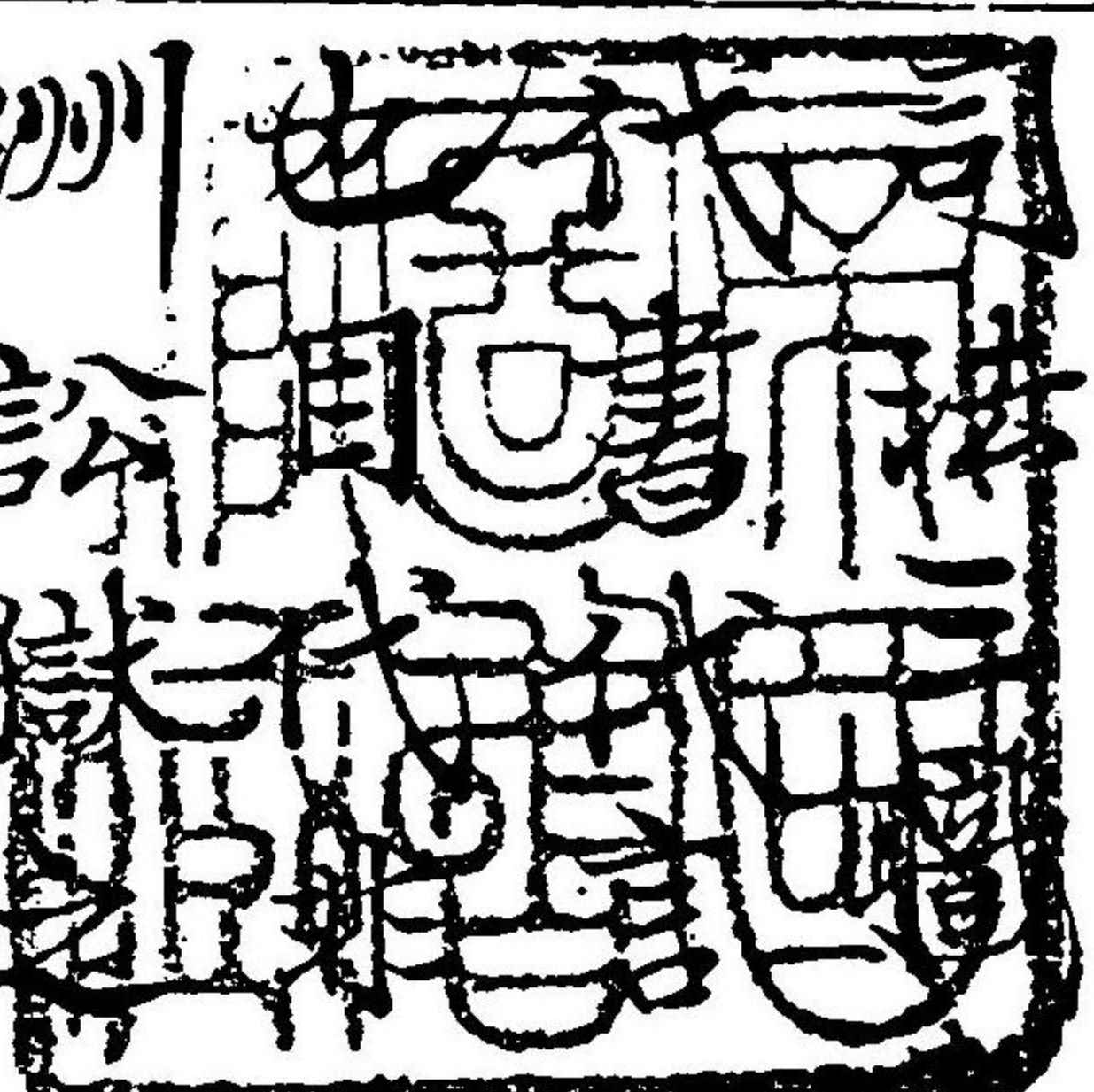
代書代言人非我舊俗所有也
目代非我舊制所設也
歐洲訟獄之法漸入于我采而酌之
先考其原委蓋代書人
行文案以代理兩造代言人
陪護辯說以助訴而目代即

大政官大書記官井上毅著

佛國 司法三職考

明治二十二年
二月刊行

東三堂藏板



考序
非我舊俗所有
我舊制所設也歐
洲訟獄之法漸入于我采而
酌之先考其原委蓋代書人
行文案以代理兩造代書人
陪護辯說以助訴而目代即

百法三聯
不過為政府代訟者三者同
流而殊流余於是有所司法三
職考之著焉代言也者非古
也無情者不得盡其辭大畏
民志何以代言為世道澆季
人競多言情偽紛紛有如亂
絲孤兒孀婦之無援貧弱之

寡黨徃々吞冤泣屈辯護之
法實出不得已而代言始著
于世原告以得追糾捷確被
告以得暢情自白如治疾之
由醫如作室之由工而法官
之治律究精研幾亦未必不
學于代言人玉石攻磨之力

也故代言不競法科不興權
理之說不可以伸于世今夫
公廷之上兩造對理交試刃
于肯綮分條折縷無遺餘蘊
而法官靜聽中立兩間徐裁
其平正理易見而鑑衡不失
是歐洲訟獄之制而三者之

設各呈其用也抑爾等列氏
嘗論代言人為運金針之鋼
輪謂其勢能暗制法官也若
夫鼓舌鬪辯舞文罽羅黑白
易所巧者捷拙者敗是豈理
之所宜有焉哉至其窳下者
則長詐偽圖構造徒滋詞訟

以敗民俗即非列等力那破
命之所疾視以為國讐也蓋
宰世猶調藥要使毒分不剋
于其藥分而已矣
明治十年十一月

井上毅誌

水野蓋書

目次

第一章

代言人考

大意

沿革

試業員登簿負

規律

職務

代言人議會

施濟局

論說

參議院兼

大審院代言人

第二章

代書人考

本義并沿革

事務

職制

代書人議會

代書人各國異同

訟務士總論

第三章

目代考

本義并沿革

職制

大目代 大代言官 大目代輔助 目代 目代補助

司法警察

公訴

民事

各國目代制

大

審院目代

第四章

代言人總論

字國代言人

從五位井上毅著

佛國司法三職考

第一章



大意

代言人原名「アドカ」音「アドカ」本羅旬語ノ「アドカ」ヨリ来ル「アドカ」為ニト云義「カ」ハ呼ニ應シテ赴キ救フノ義ナリ、代言人ハ它人ノ為ニ訟理ヲ護スルヲ以テ業トスル者ナリ

代言人ハ官負ニアラズ又代書人書記人公負ヲ以テ私ノ為ニ事ヲ辨スル者ノ類ニアラズ凡其學問有テ其免許ヲ得タ

敢テ國法及條則及風教及國ノ安寧世ノ平治ニ及シタルノ事ヲ言論シ、若クハ著述スルコトナク、及裁判所、若クハ官負ニ對シテ當然ノ敬禮ヲ失ハザルコトヲ誓ス

試業生ノ定期三年、其間、毎日、裁判所ニ出頭シ、代言師首長ノ講議ニ會班シ、故障アリト雖モ欠席三月ヲ踰ルコトヲ許サズ、業勤メザル者ハ、三年ヲ過ト虫モ、議會其登簿ヲ許サズ、凡ソ試業生二十二歳以上八、人ノ為ニ代言スルコトヲ継ス、若シニ十二歳ニ滿タザレバ、二年間、公廷ニ習業シタルノ證書ヲ得ルノ後ニ非レバ、代言スルコトヲ得ズ、

試業ノ期終テ、代言人簿籍ニ登列ス、毎上等裁判所及毎裁判

所ニ簿籍アリテ、議會之ヲ掌ル、凡、登簿負タルニハ、第一、試業ノ期ヲ終フ、第二、代言人タルベキ行儀風采ニ於テ欠ルコトナシ、第三、本裁判所々在ノ地ニ住シテ、現ニ代言ヲ行フ、凡ソ登簿負、大抵試業負タルノ先後ニ從テ、名ヲ列ス、議會、毎年ノ始メ、名籍ヲ改メ、印刷シテ、裁判所書記局ニ納ム、

規律

凡ソ代言人、其首長ノ召令及議會員推選ノ事アルニ非レバ、妄リニ集會スルコトヲ得ズ、首長ハ、推選ヲ除クノ外、它ノ事ヲ以テ、會議ヲ許スベカラズ、此ノ條ニ乖ク者ハ、刑法二百九十三條ニ從ヒ、不法集會ノ罪ヲ受クベシ、

若シ一所ノ代言人全負或ハ數負黨ヲ結ビ其業務ヲ行ハザル旨ヲ宣布セントスル時ハ何等ノ解説アリトモ其籍ヲ除キ再ビ登列スルヲ許サズ同第三十四條代言人自ラ為サザル所ノ文書及評議ニ列セザル所ノ訴狀意見狀ニ花押スルヲ禁ス又謝金ヲ數ノ以テ業ヲ市フノ約ヲナシ及訟辨ノ前ニ謝金ヲ求ムルヲ禁ス若シ禁ヲ犯ス者ハ罰責ヲ受ケ再犯スル者ハ籍ヲ除ク同第三十六條

代言人ハ訟理ノ正實ナル者ヲ保護スルヲ其人ノ自由ニ在リ其不正不實トスル者ハ代臆察掩襲并ニ其它ノ不正及無用冗雜ノ言論ヲナサザルヲ要ス其對訟人并ニ對訟代言人

ニ向ヒ惡言凌罵スルヲ禁ス訟事ニ関シ已ムヲ得ザル歟或ハ其訟主若クハ訟主ノ代書人ヨリ書面ヲ以テ明カニ囑托シタルヲ除ク外ハ對訟人ノ榮譽ヲ汚辱スベキ重情ノ事件ヲ發クヲ禁ス犯ス者ハ刑法三百七十一條ニ依リ糾治スベシ三百七十一條 誣告律 禁獄罰金ヲ科ス今廢○第第三十七條

代言人違律ノ罰一曰戒諭二曰譴責三曰停業四曰除籍停業ハ一年ヲ踰エズ千八百二十二年十一月二十日令 第十八條

違律ノ罰ヲ受ル者ハ其情狀ニ從テ更二十年ヨリ多カラザルノ間議會ノ負タルヲ禁スルヲアルベシ千八百五十二年三月二十二日令 第三條

會審院ニ於テ重罪被告人ノ為ニ代言スベキト命セラレタル
タル代言人ハ當然ノ故障緣由アリテ裁判官之ヲ免スルニ
非レハ命ヲ辞スルヲ得ズ拒ム者ハ違律ノ罰ヲ受ク千八百二十二年十一月二十日令第四十一條

代言人ハ裁判諸官ト相兼ヌルヲ得ズ原注但裁判官補員ハ此限ニ在ラズ
縣令郡令縣書記官ト相兼ヌルヲ得ズ裁判所書記人公證人代書人及諸官ノ俸給ハ俸給ヲ得諸公院ノ庶務吏目病院類ト相兼ヌルヲ得ズ又一切ノ商業ト相兼ヌルヲ得ズ
商家ノ手代タル者代言人タルヲ得ズ其它ノ諸官員ハ代妨ナシ同四十二條

代言人訟言或ハ記述ニ因テ教旨及王家ノ朝憲國憲國法及官吏ヲ侵ス者ハ其席ニ於テ裁判所直チニ之ヲ糾治シ目代ノ意見ヲ取り違律ノ罰ニ處ス其更ニ重キ情アル者ハ刑律ニ拈ル四十三條

代言人停業除籍ノ罰ヲ受ケタル者ハ其本属ノ上等裁判所ニ覆訴スルヲ得大目代モ亦代言人ノ為ニ覆訴スルヲ得上等裁判所ハ全院會班シ議事室ニ於テ戸ヲ閉シ廣廳ヲ裁判ス法官ノ違律ヲ判スルノ法ニ同シ

職務

凡ソ登簿代言人タル者ハ佛蘭西國中何ノ地ヲ論セズ上等

裁判所及郡裁判所ニ於テ其許可ヲ待ツトナク訟言スルヲ得、但治罪法二百九十五條ハ例外トス 試業員ハ千八百三十年ノ令ニ從ヘハ其本屬裁判所ノ外ニ於テ代訟スルヲ得ズ、此ノ令、今現ニ行ハレズ、

凡ソ代言人ハ上等裁判所及郡裁判所ニ在テ代訟ノ專業ヲ有シ、代言人ニ非ル者、代書人ト雖モ、妄リニ人ノ為ニ代言スルヲ許サズ、重罪ハ此限在ラズ 若シ代言人訟ニ任スルノ後、聴理ノ日ニ當リ、病ヲ以テ出頭スルヲ能ハザレハ、本日訟廷ヲ開クノ前ニ、書面ヲ以テ、裁判長官ニ照知シ、文書ヲ代書人ニ送付ス、此時ハ、或ハ代書人代言シ、或ハ次日ヲ待ツトテ得、代言

人同一時ニ二三ノ訟事ニ任シ、同日、它ノ訟局ニ出頭スル時ハ、亦前ニ同シ、右ノ二項ヲ除クノ外、代言人故ナク出頭セザルヲ以テ、本日聴理ヲ行フヲ能ハザレハ、其延期ノ費用ヲ償當スベシ、及對訟人ノ抵償ヲ任ズルヲアルマシ、凡ソ代言人ハ、起立被冠人、訟言ス、其它代書人以下、皆帽ヲ脱ス、務ヲ行フ、

代言人代言ニ任ズルノ外、詞訟法ニ於テ、必ず代言人ヲ經由スルノ定例アル者、三、一、民事ニ付キ、大審院ニ上告スル者ハ、必ず其裁ヲ受ケタル所ノ管内十年以上業ヲ行ヒタル代言人三人ノ意見ヲ乞ヒ、其代言人之ニ署名シタルニ非レバ、

大審院、其上告ヲ受ケス、二、邑地私地ノ間ニ争訟アリテ、邑會、訟ヲ讓ラントスル時ハ、訟ヲ讓ルトハ内必ス法士即チ代三人ノ意見ニ依ル三ニ後見人ノ未丁人及禁權人ニ代テ、訟ヲ讓ラントスルハ、必、親族會議ノ許可、及目代ヨリ指名シタル法士三人ノ意見ニ依ル、各省、及巴里ノ出納司、官地司、關稅司、間稅司、及其各縣郡ニ派出シタル者、大抵皆豫一ノ代言師ニ托シ、其司務ノ訟ヲ擔當セシム、或ハ毎年謝金ヲ定メテ約束トスル者アリ、縣邑地方亦之ニ倣フモノアリ、凡ソ代書人ハ、官私ニ居間シテ、訟者必、其手ヲ經ザルヲ得

ズ、故ニ代書人亦訟者ノ委托ヲ辭スルヲ得ズ、代書人ハ之ニ反シ、訟者代書人ノ手ヲ經ガルヲ得、代書人亦不正直ノ訟ヲ辭スルヲ其自由ニ任ズ、若シ訟者自ラ代書人ヲ得ルヲ能ハザレハ、裁判所ノ命ヲ以テ一ノ代書人但シ重罪ニ至テハ必、辯護人アルヲ要ス、裁判官其職權ヲ以テ、一ノ代書人ヲ指名シ、代書人乃チ其命ヲ辭スルヲ得ズ、辯護ニ擔當ス、

按スルニ、重罪ノ為ニ、官命ヲ以テ代言スル者、本犯往々貧困ノ徒ニシテ、代書人、之カ為ニ施惠スルニ過ギズト云、

上等裁判所及郡裁判所ノ裁判官及目代及訟務士、書記人代書人ノ類

欠ル時ハ裁判所ノ命ヲ以テ、代言人名籍ノ順序ニ従ヒ、假ニ其負ニ充ツ、此ノ時ハ、當然ノ故障アルニ非レバ、命ヲ拒ムヲ得ズ、現ニ行フ所ニ據レハ、代言人上等裁判官ノ欠ヲ充ツルハ、但郡裁判所ノ欠ニ備フルハ、常ニコレアリ、各上等裁判所、毎年、所管ノ代言人、才學優長、及公正ニシテ、任ニ称フ者ヲ録シ、司法卿ニ具申ス、

代言人議會

各上等裁判所、及各郡裁判所管下ニ、代言人議會アリ、規律ヲ監督シ、名籍ヲ管掌ス、議會ノ人負、巴里ニ於テハ、二十一人、各所取モ少キ者五人、其ノ管中ノ登録シタル代言人、毎年一次集會シテ、投票全勝法ヲ用ヒ、議會負ヲ推選ス、議會ノ上席人

トシテ、代言人全員ノ首長タル者ヲ、バトニエト称ス、即チ執事人ノ義ナリ、古ハ、杖ヲ執リ、會ヲ肅スルノ例ニ取ル、又毎年投票全勝ヲ用ヒ、推選ス、議會ノ務ハ、一ニ毎年ノ初、名籍ヲ改メ作り、及名籍ノ争ヲ判決ス、二ニ、代言人負ノ風儀ヲ監ス、三ニ、其規律ヲ犯ス者ハ、違律罰ヲ以テ科處ス、其它、法科及第生、試業代言負トナリ、試業負、登録負トナリ、及一旦業ヲ離レテ、再タニ籍ニ入ルヲ乞フ者ノ許可ヲ掌ル、凡ソ代言人違律ノ罰ハ、議會之ヲ處分ス、但シ訟廷ニ於テ律ヲ犯セル者ハ、裁判官直チニ之ヲ處分ス、代言人規律ヲ犯シ、議會置テ理ヤサル者、及議會自ラ過失ヲ犯ス者、及代言人全

負集會ヲ以テ過失ヲ犯ス者ハ、上等裁判所大目代之ヲ彈告
シテ、上等裁判所全負集會班シ、其議事室ニ於テ審判ス、其它
ノ私罪ハ、裁判所之ヲ糾治スル、一ニ常人ニ同シ、

施濟局

代言人議會、貧民ノ争訟ヲ辯護スル為ニ、施濟局ヲ設ク、施濟
局一周一次集會シテ、貧民ノ依託ヲ受ク、其果シテ理直ナル
者トスル時ハ、意見状ヲ添ヘ、議會ニ送り、議會輪番ヲ以テ代
言人ニ分賦シ、護訟セシム、試業員ハ、絶ヘズ施濟局ノ集會ニ
出頭スベシ、目代ハ、施濟局ノ事ヲ監シ、時アリテハ、其集會ニ
出頭スベキノ代言人ヲ指名シ、及護訟ノ輪番順次ヲ監ス、

論說

大審院大目代ブランレ氏云、古今、代言師ノ得失ヲ論スル者、
其說同カラズ、千七百年代ノ有名ナル尚璽官、アガサウ氏ハ、
代言師ノ起ル、裁判官ト其久キヲ比シ、徳ト其貴キヲ比シ、審
判ト其要用ヲ比スト云リ、然ルニ那破倫帝ハカンバセレ氏
ノ代言人、令状按ヲ奏上シタルヲ斥ケテ、批文ヲ下シテ曰、此
令状、非ナリ、一言代言人ヲ制抑スルノ語ナシ、彼ハ罪惡不忠
ノ造意謀主ナリ、我、吾カ腰ニ劍ヲ擁スルノ間、決メ此ノ如キ
ノ令状ニ署名セズ、我、政府ニ逆テ自ラ用ユルノ代言人ニ於
テ、人ノ其舌ヲ切ラント欲スト、是レ一ハ其美ヲ溢稱シ、一ハ

其失ヲ張言ス、並ニ一偏ニ倚ルヲ免レ、不要之代言師ハ正
直勤勉ナル者ハ、其它ハ行ヲ勵シ業ヲ勤ハテ、世ノ公福ヲ助
ハル者ト其美ヲ同スル而已（醫師教師ノ類、世利ヲ助
クル者ト同シキヲ云）

按スルニ、巴里府ノ代言師、其籍ニ登ル者、六百人ニ過ク、
其試業負タル者、千五百人ニ下ラズト云、佛蘭西全國、法
學校生徒五千人ニシテ、其半ハ、法官及代言師タルヲ
求ムル者ナリ、代言師ノ數多シト謂ベシ、高官、要職、往々
代言師ヨリ舉リ、職ヲ罷メ、又代言師ノ業ヲ賣ル者、大抵
常事トス、（故ノ外務執政ジユルハーブル、故ノ内務執政
クイクトル、フランクノ如キ、余巴里ニ在テ現
ニ其ノ訟ヲ行
フヲ見タリ） 巴里ノ俗婦人女子、第一ニ、軍士戰將ヲ數

ハ、第二ニ、代言師ヲ數ヘ、艶美シテ男兒ノ好事業トス、代
言師ノ務、亦榮ナリト謂ベシ、其称シテ良手トスル者、往
往一舉シテ万金ヲ得ルモノアリ、家巨万ヲ累ヌルニ至
ル、余巴里ニ在ルノ間、蘇美士峽ノ訟アリ、代言師アル
氏、訟勝チ六万布蘭ノ謝金ヲ得タリ、アル氏、民事代
言第一ト称ス、毎年二十万布蘭ノ産ヲ得ト云、又ジユル
ハーブル氏、代言ヲ乞フ者大抵二千弗蘭以上ヲ謝ス
ト云、代言師ノ業亦富メリト謂ベシ、余巴里ニ於テ、法廳
ニ至リ見ル、代言師且訶ヘ且罵リ、左指右顧、幾ト任人ノ
路ニ叫フニ異ナラズ、頗怪僻ニ類スル者ノ如シ、然ルニ
其由テ来ル所遠ク、因襲ノ久キ、根目敵羨シテ、嘗テ異議
ヲ容ル、者ナシ、其弊亦少シトモガ、

參議院兼大審院代官人

參議院兼大審院代官人ハ、專ラ參議院及大審院ニ屬シ、它ノ代官人ト類ヲ異ニス。昔、王家參議官即チ今ノ參議院ノ今ノ大審院ノ事ヲ兼子、凡ソ巴里門ノ代官人皆參議官ノ前ニ代訟シタリ、其後參議官附屬代官人ノ定員ヲ設ケ、或ハ増テ二百三十員トシ、或ハ減シテ七十三員トシ、共和革命ノ後、參議院、大審院ト分立スルニ至テ、又其代官人ヲ分テ二類ト為シタリシカ、其不便多キヲ以テ、千八百十七年、定メテ國議院兼大審院代官人ヲ置キ、定員六十人トセリ、凡ソ大審院ニ上告スルモノハ、重罪ヲ除クノ外、必ス大審院

代官人ノ手ヲ經由シ、代官人訴狀ヲ作り、訴訟ヲ行フ、猶它ノ裁判所ノ代書人ニ同ジ、又凡ソ施政事務ノ争ヲ以テ、參議院ニ訴フル者ハ代官人ノ周旋保護ニ倚リ、訴訟ノ本人、自ラ出頭セズト雖モ、代官人其諸省事務執政及諸局長ニ具上シタル訴狀ニ署名シ、及其主掌ノ課務局ニ出入スルヲ得、參議院兼大審院代官人ノ規律ヲ持スルノ議會員九人、投票ヲ以テ推選ス、別ニ首長一員、眾員投票シテ、三名ヲ推選シ、名ヲ司法執政ニ呈シ、執政其中一名ヲ拔テ、之ニ任ス、並ニ三年一任トス、參議院兼大審院代官人ハ、各員自ラ代ルノ人ヲ定メテ、名ヲ

上ツルヲ得、即チ職ヲ它人ニ齎クヲ云自ラ代ルノ人ヲ取ルニ、第一佛蘭西人ニ限ル、第二、二十五歳以上、第三、試業三年ヲ経、第四、代言人ト相兼ルヲ禁スルノ職業ヲ行ハズ、議會已ニ其人ヲ受ケ、大審院亦異議ナキニ至テ、七千布蘭ノ保証金ヲ納シ、參議院及大審院ノ衆會ニ於テ、宣誓式ヲ行ヒ、然ル後ニ國主ノ命ヲ以テ職ニ任ズ、

按スルニ、參議院兼大審院代言人ハ、其務尋常裁判所ノ代書人ニ同シ、其職位ヲ以テ私産トシ、世々相齎クト亦代書人書記人ノ類ニ同シ、亦中古ノ遺弊ナルノミ、

第二章

○代書人考

本義及沿革

代書人原名「アウー」ハ、語原ハ「代書人」ト同ク、羅旬語ノ「アドウカ」左ニ出ツ、蓋シ代書人代言人源ヲ同クシテ流ハ異ニス故ニ古ハ「アウー」亦訴訟人ノ為ニ代言スルヲ得、中古「アウー」ハ、主トシテ筆ニ代リ、アウカハ、主トシテ口ニ代ルト虽モ「アウー」亦民事ニ代言スルヲ妨ゲズ、千八百二十二年二月ノ令ニ至テ、始メテ對理ヲ以テ「アウカ」ノ專業トシ、「アウー」ハ代言ヲ禁ス、但シ「アウカ」足ラザルノ地ハ、上等裁判所ノ議

ヲ以テ、特ニ「アウ」ト云フノ代言ヲ許ス、類多シト云ノ又訟ノ主件
ニアラズシテ、訴訟中ニ起ル枝末事件ノ對理ハ「アウ」ト云フ自
ラ訟言スルヲ得、是ヨリ後ニ職判分シテ、互ニ相兼子不、今
アウト譯シテ代言人或ハ訟師トシ「アウ」ト云フ譯シテ代書人
或ハ狀師トス

プロク氏國政字類云、古昔何如ト云ニ拘ラス、今日ニ在
テ、何故ニ代書人代言人ト、其務兩分シテ互ニ相兼ナル
ヲ得ザル乎、蓋シ一人ヲ以テ繁碎委曲ノ訴訟方式ヲ
行ヒ、并セテ對理訟辨ヲ豫構スルヲ、勢ノ能ハザル所ナ
リ、瑞西ニ在テハ、訴訟書式簡少ナルヲ以テ、代書人即チ

代言ヲ兼ス、是レ、訴訟人ノ為ニ費ヲ省クハ利少カラザ
ルナリ

事務

凡ソ訴訟ハ、保安裁判商事裁判ヲ除クノ外、原被ヲ論セズ、必
ス代書人ニ由ル代書人ナクシテ、訴ヲ行フヲ得ズ、代書人
ハ訴訟人ノ名代トシテ、對訟人ト往復ヲ為シ、訟廷ニ出頭ス
ルヲ以テ務トス、

原告人ヨリ、最初被告人ニ送ルノ喚告狀ニ、其ノ委託シタル
代書人ノ名ヲ告知シ、及其ノ代書人ノ家ニ假寓ヲ定メタル
ヲ著ス、被告人ハ日内ニ之ニ答ヘテ、亦其ノ托スル所ノ代

書人ヲ報知ス此ノ報知ハ、托ヲ受ケタルノ代書人ヨリ、叙及署名シテ、直チニ原告代書人ニ送付ス。若
 レ限内ニ被告人其ノ代書人ヲ報知スルノ答状ナキ時ハ、原告ヨリ欠席裁判ヲ乞フテ得、代書人己ニ定リテ後ハ原告ノ訴状ニ被告人或ハ答状ヲ送り或ハ送ラザル、其意ニ隨フ、凡ソ訴答状ハ、證據書類ノ目ヲ載ス、而シテ書類ハ之ヲ書記局ニ寄管シ、對訟代書人書類ヲ覽ント欲スル者ハ、引領扣取スル、得ズ、只々書記局ニ至リ、書記官ノ前ニ於テ之ヲ一閱シ、若クハ寫シ取ルヲ許ス、或ハ雙方代書人、受領證ヲ以テ、直チニ書類ヲ投受シ、書記局ニ寄管スルヲ假ラザル、亦其ノ一法タリ、訴答状往復終テ、原被ヲ論セス、其ノ急捷ヲ要

スル方ノ代書人ヨリ、書記局ニ、訟件及原被本人ノ名、双方代書人ノ名ヲ登記セシメ、訟ノ日ヲ定メシメ、定日ニ先ツ一、日、中間一日ヲ對訟ノ代書人ニ報知メ、出頭ヲ約ス、期ニ至テ、双方ノ代書人出頭シ、裁判官ノ前ニ於テ、各其ノ訴答状ヲ宣讀シテ、共ニ之ヲ裁判官ノ手ニ付シ、裁判官ノ檢閲ニ供ヘ、裁判長官即チ對理ノ日ヲ命ス、此ノ時、若レ一方ノ代書人出頭セズ、或ハ訴状若クハ答状ヲ宣讀セザル時ハ、則チ專ラ一方ノ案状ニ據リ、直チニ欠席裁判ヲ行ハ、對理ノ期日ニ至リ、双方ノ代書人、各訴答ノ理趣ヲ辨明ス、此ノ時、本人自ラ對理シ、或ハ外ニ代人ヲ托シテ
訟辯スル、其意ニ隨フ、其ノ代書人負足ラザルノ地ハ、代書人ハ之ニ連班ス、

人、上等裁判所ノ免許ヲ得、魚子テ對理訟辨ヲ行フ、對理終テ
 裁判宣告シ、訟ノ得失決ス、勝訟ノ代書人、即チ裁判施行ノ公
 寫ヲ書記局ニ乞フ、裁判施行ノ公寫ニハ、双方代書人ノ名、原
 被入ノ名、職業、住所、訴答ノ始末ヲ載スルノ文ヲ加フ、此ノ文
 亦勝訟代書人ノ叙録スル所タリ、此レ裁判官若クハ書記官
 之ヲ叙録スヘキ者、然ルニ
旧來相沿テ代書人之ヲ為ス、其叙録實
 ヲ失フ者ハ、敗訟代書人之ヲ察討ス、該公寫ヲ使部ニ托シ
 敗訟ノ本人、或ハ其ノ代書人ニ送付シテ、即チ裁判ノ如ク施
 行ス、其原被告人、更ニ上等裁判ニ上告スル者ハ、又上等裁判
 ノ代書人ニ托シ、方法順序前ニ準ズ、
 凡ソ人ニ向テ名代ヲ托スル者ハ、委任状ヲ付シテ證トスル

ヲ法トス、但夕代書人ハ公士ヲ以テ事ヲ行フ故ニ委任状ナ
 レト、虽モ其ノ訴訟人ノ委任ヲ受タルヲ以テ公正トス、若シ
 實ニ托ヲ受ケズシテ偽テ托ヲ受クルト、稱シ或ハ事謬錯ニ
 出テ、或ハ委任ノ權ヲ越ル者ハ、訴訟人之ヲ告訴メ、代書人ノ
 為シタル事ヲ取消ス、トテ得凡ソ代書人委任ヲ受ルノ權ハ
 訴答状ニ署名シテ對訟人ニ送付シ、裁判公寫ノ副文ヲ叙録
 シ、及其ノ叙録ノ不當ヲ察討スル等、此レ代書人ノ權内ニ在
 テ、訴訟人之ヲ指摘スル、トテ得ズ、但夕白狀承認狀ニ至テハ
 代書人訴訟本人ノ意ヲ承ケズシテ專ニ之ヲ行フ時ハ、本人
 ヲリ代書人ノ越權ヲ訴フル、トテ得更ニ事ノ至重ナル者裁

判官ヲ阻障シ公證書ノ偽造ヲ訟フルノ類ハ代書人ヲ訟フル亦此ノ例ニ
在其ノ訴状ニ必ズ本人ノ署名アルヲ要ス本人ノ署名ナキ者ハ訴訟ノカアルヲナシ
白状承認状猶本人ノ署名ヲ要セズ訴訟委托人ヨ
リ代書人ノ不法ヲ訴ヘ代書人理由ナル時ハ訴訟双方ニ向
テ損害ノ賠償ヲ科納シ重キハ職務ノ禁ヲ受ケ或ハ刑法ノ
罰ヲ受ク若シ代書人ヲ訟ヘタルノ訴訟委托人理由ナル時
ハ代書人及對訟人ニ向テ損害賠償及代書人ノ榮譽償ヲ科
納シ其ノ判文ヲ新聞紙ニ載セ代書人ノ為ニ洗雪ノ方ヲ致
ス
凡ソ裁判往復ノ費用ハ印紙記録及書記局ノ費逐項代書人ヨリ支出シ

裁判完結ノ後代書人ノ謝料ト共ニ本人ヨリ算還セシム勝
訟人ハ敗訟人ニ其ノ訟費ヲ償當セシムルヲ以テ勝訟人ノ
代書人ハ轉々敗訟人ニ向テ債主タリ裁判官其ノ費額ヲ檢
査シ其ノ數量ヲ納完スベキヲ宣告シ宣告施行ノ公寫ヲ
勝訟人ノ代書人ニ付シ催促セシム
凡ソ原告ハ往テ被告人在ル所ノ裁判所ニ訴フ故ニ訴訟中
其ノ托スル所ノ代書人ノ家ヲ以テ假寓トシ之ヲ裁判所書
記局及被告人ニ照知シ凡ソ往復喚告皆代書人ノ家ニ寄投
セシム
按スルニ代書人ハ訴訟代理人ナリ代言人訟者ノ輔翼

タルノ比ニ非^ヤナリ凡ソ訴訟ハ代書人之ヲ代理シ訴
答書類ヲ叙録署名シ費用ヲ支出シ訟廷ニ出頭ス其ノ
欠席裁判ト云ルハ代書人欠席ノ謂ナリ其ノ本人ヲ喚
徴シ之ヲ問供スルハ以テ証ヲ取ルカ為ニス乃チ聴訟
ノ一法タルニ過キズレテ常ニ有ルノ事ニアラザルナ
リ大抵訴訟人ハ郷ニ在リ常業ヲ營ミ訟事ハ擧ケテ之
ヲ代書人ニ委ヌル而已故ニ代書人ハ日ニ訟廷ニ在リ
毎常五六件ノ訟事ヲ荷ヒ其家ニ習業生數人アリテ為
ニ書録ノ事ニ任スト云○支那ニ代書人アルハ專^ニ書筆
ニ代ル者佛國アウ^イエ譯レテ代書人トナスモ彼此相

混スル勿レ○ドラクル^イテ^イ氏云代書人ノ設^テハ訟事ヲ
シテ的確ナラシメ官私ノ間ニ立テ保障ノ利ヲナス今
無知ハ訟者ヲシテ名号ナク職務ナキハ人ニ依リ居間
代理セシメハ豈ニ此ノ益ヲ見^ハ乎按スルニ我現今代
訟ノ規則ナクシテ而シテ代人代テ訟^ルルヲ許ス間里
ノ姦民争ヲ煽シ訟ヲ市^ヒ弊端百出職トシテ此ニ由ル
ナリ

刑事ハ代書人之ニ預ル^ルナシ但シ輕罪禁獄ニ至ラサル者
ハ代書人ニ托シテ訟廷ニ名代スル^ルヲ得

職制

上等裁判所及郡裁判所每管ニ附属スル所ノ代書人ニ各定
負アリ司法執政ヨリ上等裁判所ノ意見ヲ取り奏請シテ其
ノ負ヲ定ム地方ノ繁簡ニ従ヒ均シカラズ巴里府上等裁判
所代書人五十四
人郡裁判所
百三十九人

代書人ヲ任スルハ大目代ヨリ司法執政ニ名ヲ呈シ執政奏
請シ國主ノ命ヲ宣ス

凡ソ代書人タルヲ得ヤキ者ハ第一ニ民權政權ヲ有ス長
又邑長ノ保
証書ヲ要ス第三
ニ滿二十五歳以上出產証書ヲ
以テ証トス第四ニ法科登第シ若クハ法
學校ヨリカシテ能力保証書ヲ得タル者 第五ニ代書人ノ門ニ在

テ五年間習業ヲ經若シ法科得業生タル時ハ三年間習業ヲ
經タル者郡裁判所ノ代書人タルヲ得

第六本管裁判所所在ノ地ニ住ス第七代書人議會ヨリ才行
無缺ノ保証書ヲ得第八本管裁判所ノ批可ヲ得目代右ノ諸
保証ヲ受取り之ヲ大目代ニ遞送シ大目代其ノ批文ヲ副ハ
司法執政ニ薦メ執政奏宣シテ然ル後保証金ヲ納レ宣誓式
ヲ行ヒ職ニ就ク

代書人ハ諸法官及行政諸官ト相兼ヌルヲ得不
代書人疾病事故アルニ非レハ原被ヲ論セス訴訟人ノ委嘱
ヲ辞スルヲ得不

商事裁判ニ代書人ナシ費ハ省キ簡ニ就クナリ其アグレト

名クル者代書人ノ類即チ委托ニ應シテ代書人ノ事ヲナス
但タ代書人ハ凡ソ訴訟人必ス之ニ由ラザルヲ得ズ「ア」
レハ由ルト由ラザルト訴訟人ノ意ニ隨フ代書人ハ官吏ノ
類「ア」グレハ私業タリ此レ其異ナル所以ナリ

代書人議會

上等裁判及郡裁判各所ニ代書人議會アリ各議會四員以上
十五員ニ至ル裁判所管内代書人總員二百人ニ上ル者議員
以下ハ議員四人ヲ置ク之ヲ多キノ極トス總員二十人
ク之ヲ少キノ極トス議員ハ同管代書人總員會議ニ投票推
撰シ毎年其三か一ヲ遞次代任シ三年ニシテ皆代ル其ノ中
首長一員

議會ハ第一代書人社中ノ規律ヲ持シ各人ノ違律ヲ糾治シ
テ之ヲ科責ス第二証憑書類互ニ相授受スルノ間ニ起ル所
ノ双方代書人ノ争ヲ聽理シテ之ヲ調和シ調和成ラサル時
ハ其争ヲ判スルノ意見ヲ發シ裁判所ノ決ヲ待ツ第三代書
人ノ過失ニ因リ訴訟人ヨリ代書人ニ向テ抵償ヲ求ムル者
其調和スベキヲ調和シ抵償ノ意見ヲ發シ規律ヲ以テ其過
失ヲ科責ス刑法ノ処分
ト相妨ケズ第四訟費ヲ徴シ及分賦スルノ争ニ
於テ意見ヲ發ス第五施濟務ヲ開イテ貧民ノ訟ヲ各人ニ輪
賦ス第六代書人ニ補スベキ者ノ才行保證書ヲ發ス第七代
書人社中ノ權利ヲ總理シテ其ノ訟ヲ主持ス

タル者ヲ云右ノ五頁ハ任命ヲ國主ニ受ケテ各裁判所ニ附
 属シ公私ノ中間ニ立テ訴人ノ為ニ訟務ヲ辨ス故ニ此ノ名
 アリ直譯シテ訟務士トス
 訟務士ハ其官ヲ以テ私産トシ業ヲ其相續人ニ傳フ名ハ相
 續人トシテ其實價ヲ詰メ之ヲ賣ル約成テ後國主ノ命ヲ得
 テ相續人其業ヲ傳フ蓋シ中古王氏ノ末朝家貨ヲ貪リ官ヲ
 賣ルノ風盛ニ行ハレ富人一タヒ官ヲ買フ時ハ以テ一家ノ
 私産トシ或ハ子孫ニ傳ヘ或ハ更ニ它人ニ遊賣スルヲ得
 以テ王家ノ七ルニ至テ國憲議會初メニ賣官ノ禁ヲ發シタ
 リ然ルニ千八百十六年四月軍用給セガルヲ以テ大審院代

言人公證人代書人書記人使部証券牙保人商會牙保人評價
 人ノ保証金ヲ増シ收メ一時欠ヲ填ムルノ計ヲナシ是ヨリ
 後以上諸負相續人ノ名ヲ以テ國王ノ採可ヲ乞ヒ、遞ヒニ相
 賣ルヲ得セシム是レ舊弊再ヒ興レルナリ
 凡ソ訟務士ハ一種ノ專賣產業トシテ人ノ為ニ訟務ヲ辨シ
 其費用ヲ得ルヲ以テ産トス牙保人ノ商務ヲ辨スルト類ヲ
 同ス謝金ノ數量ハ定則アリ
 訟務士牙保人ハ並ニ保証金ヲ國庫ニ納レ其罪アル時ハ科
 罰抵償スルニ備フ若シ職ヲ免スル時ハ之ヲ還シ与ヘ勤務
 中ニ死スル時ハ其子孫ニ還シ与フ

古シヤテレー氏曰中古王家ノ時官ヲ鬻ク一一大要政
タリ高爵貴封賞ヲ以テ得バク市井ノ富豪超エテ右族
ニ列スベシタルテール氏以來譏者盛ニ其弊ヲ論シ共
和革命ノ時一決シテ其事ヲ禁シタリ然ルニ王黨因循
ノ徒カメテ舊ニ復スルヲ利トシ訟務士ノ相續賣買ヲ
許シ是ヨリシテ種々ノ惡弊相仍而生ス第一職ヲ傳フ
ルヲ其人ノ意ニ任シ自ラ其價直ヲ定ム其真法外ニ騰
貴シ職務花利ノ比例スバキニ非ス之ヲ買フノ人已レ
職ニ當ルニ及テ勢必百方填償ノ術ヲ求メテ其欠陥
ヲ掩ハザルヲ得バ猶收獲ノ利ヲ以テ墾耕ノ失ヲ補

フ者ノ如シ甘心シテ姦ヲ行ヒ訟費ノ定則ヲ破リ乃チ
法官亦寛視メ問ハズ甘シテ此賊盜ノ徒犯タリ風俗之
カ為ニ弊ヘ人民ノ財産之カ為ニ敗レ裁判ノ風聲之カ
為ニ地ニ墜ツ此事現行罪犯ニシテ人々皆見ル其職ヲ
行フ者トモ亦自ラ其弊ヲ舉クルニ至ル然ルニ之ヲ
革メントスルニ至テ何如シテナスバキ乎ヲ知ラズ一
執政アリ銳意メ改革セント欲ス怒チ其位ヲ失ハリ今
日ニ在リテ根ヲ抜キ源ヲ塞クヲ竟ニ及フ所ニアラズ
唯法ヲ設ケテ其弊ヲ減スルハ猶為スバキナリ官其傳
職ハ價ヲ一定シ猛ニ不法ノ相續ヲ禁シ謝金ノ新則ヲ

立テ酷ニ其情姦ヲ監レ其保證金ヲ加増シ一旦罪アレ
ハ即チ之ヲ收入シテ直チニ其職ヲ奪ヒ更ニ任選ハ約
束ヲ嚴ニスルカ如キ是ナリ此レ俄カニ抵抗ヲ激成ス
ルニ至ラズ縱使ヒ激スルモ亦勝チ易カルベシ乃ケ其
根ヲ合セテ之ヲ去ラントスルカ如キハ議院中猶舊ヲ
守ル者多シ訟務士ノ勢能ク政府ヲ暗制スルニ足ルヲ
何如セン

第三章

○目代考 目代即檢官

本義并沿革

目代トハ原名プロモロール人ノ為ニ代理スルノ義ナリ帝
國ノ時ニ在テハ帝目代ト稱シ王國ノ時ニ在テハ王目代ト
稱ス佛蘭西國二十八所現今二十六所ニ止マルノ上等裁判所ニ派出シ
テ目代總負ヲ管攝スル者ヲ大目代ト云又上等裁判所ニ在
テ大目代ノ命ヲ受ケ訟獄ノ事務ニ任スル者名ケテ大代言
官トス大代言官亦目代ノ一名タルニ過ギズ目代官ヲ總稱
シテミニステルピブリツクト云即チ衆ノ為ニ代理スルノ

義其公福ヲ護シ社會ノ為ニ邪ヲ糺シ犯ヲ訴フルノ意ナリ
 古ヘ目代官ノ設ケナシ、中古人ノ為ニ代訟スル者ヲ名ケテ
 アロキョロト云即チ今ノ代書人ノ類ニシテ泛ク各民ノ
 代訟ヲナス專ラ國王ニ属スル者ニアラス但時アリテ國王
 ノ公訟ヲ代辯スル而已即チ英國現今ノ如シ千三百三年始メ
 テアロキョロトヲシテ忠國ノ誓ヲ宣ベシメ專ラ王事ヲ理
 シ嗣後它ノ人民ノ私訟ニ關カルト無ラシム
 目代ハ王家ノ代言人ニシテ國民ノ為ニ公訴刑訟ヲ云ヲ主持ス
 ルヲ職トスル者ハ蓋シ國王ハ人民ノ為ニ全國ノ公安ヲ守
 ルヲ以テ務トシ全國ノ公利ハ王家ノ私利ト死モ相密合シ

二塗アルト無シ其偶罪犯アリテ國ノ禍害ヲ生スルニ至テ
 其之ヲ防制スルノ任ニ當テ之ヲ誅除スルノ權ヲ有スル者
 國王是ナリ是レ目代王家ノ密臣ヲ以テ專ラ王命ヲ受ケ衆
 ノ為ニ世治ヲ護シ罪ヲ訴ヘ惡ヲ除ク所以ナリ故ニ目代ノ
 罪犯ヲ訴フルハ衆民ノ總代トシテ公害ヲ除クヲ以テ主ト
 シ王家ノ使役タル者ニ非ス蓋シ刑事ハ衆ノ為ニ害ヲ除ク
 ノ公法ニシテ各民ノ私法ニ非ス目代刑事ノ訟稱シテ公訴
 トス、各民ノ私訴ニ分ツ所以ナリ
 佛國變革ノ後一時目代ト刑事告訴ノ官ヲ以テ分判シテニ
 トナシ目代ハ法律ノ施行ヲ監護シ聽斷ノ不法ヲ監視シ告

訴官ハ罪犯ヲ論告ス那破倫治罪法ヲ定ムルニ至テ又其舊
ニ復シニ務ヲ以テ一手ニ歸シ又稍舊制ヲ潤色シ目代刑事
ノ務ヲ以テ司法警察及ヒ公訴ノ二大綱トナセリ

目代職制

一 目代ハ行政部ニ屬シ政府ノ命ヲ以テ政府即チ行政官官ニ任シ
官ヲ解ク裁判官ノ終身在職不抜ノ權ヲ有スル者ト同シカラズ

一 目代ノ務ヲ行フハ政府ノ名ニ代リ政府ノ指揮ヲ奉行ス
按スルニ凡ソ裁判官ハ終身在職不羈ノ權ヲ有シ三權
鼎立ノ一ニ居リ政府ト均勢ヲナス目代其間ニ立テ行
政官ハ支脈ヲ以テ司法官ノ事務ヲ助ケ其位望等資裁

判官貞ト相平行シ以テ兩頭ニ關係シテ首尾ヲ彌縫ス
フロク氏國政
字類ニ據ル

一 目代ノ所屬長官ヲ司法執政トス司法執政ハ目代總負ヲ
管督シ其章程ヲ付ス教令ヲ下シ其非違ヲ警戒シ或ハ面
召シテ其事務ヲ指示ス國政字類

一 司法執政ニ承ケテ目代總負ヲ管攝スル者ヲ大目代トス
大目代二十八員現今ニ十六員國中控訴裁判所二十八管ニ派出
シ各管目代諸員ヲ總々其協カヲ得テ目代ノ事務ヲ執行
ス

一 大目代ハ管内ノ刑訟ヲ執行シ所屬下等裁判所ノ規則限權

管限ヲ監シ管内ノ司法警察諸官及訟務士諸員ヲ管督ス
刑訟詳ニ
下ニ見ユ

一 民事ニ於テ目代官ハ法章ニ掲ケタル特條公治ニ関ル件々ニ付テ訟ヲ行フヲ要ス其ハ訟ヲ行フト行ハザルト其

一 目代官ハ法章及ヒ裁判ノ施行ヲ監ス

以上三条千八百十年四月二十日ノ法ヲ譯ス即チ那破倫一世ノ定ムル所ナリ目代職務ノ要領此三条ニ於テ盡セリ今表圖ヲ作ル左ノ如シ

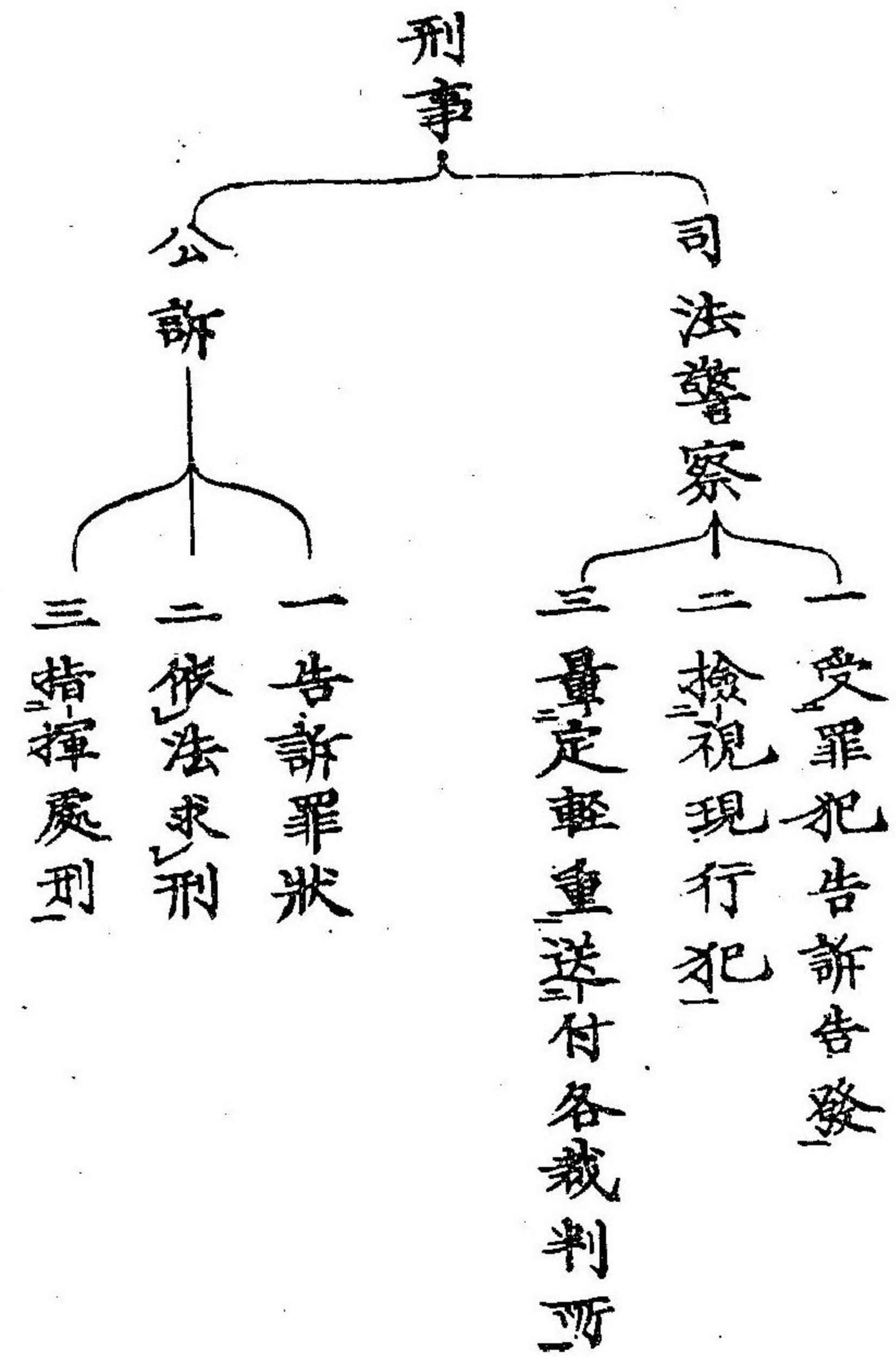
刑事司法警察
民事通条不必發言

監察監裁判所規則○監督司法警察諸官及訟務諸士○監法章及裁判施行

按スルニ目代ハ法章及ヒ裁判ノ施行ヲ監スルノ權アリテ裁判ヲ監スルノ權アリナシ司法警察諸官及ヒ訟務士ヲ管督スルノ權アリテ裁判官ヲ監視スルノ權アルナシ

一 目代刑事ノ務分テ司法警察公訴ノ二類トス司法警察ノ務ヲ行フノ目ハ罪犯ノ告訴告發ヲ受ケ及ヒ現行犯ヲ檢視推糾非現行犯ニ於テハ此權ナシ罪犯ノ輕重ヲ量テ各裁判所ニ送付ス公訴ノ務ヲ行フノ目ハ論告狀ヲ作り訟廷ニ罪狀ヲ告訴シ罪定テ後法ニ依リ刑ヲ求メ裁判宣告ノ後處刑ヲ

指揮ス是ナリ



一 控訴裁判所ニ於テハ大目代、下等裁判所ニ於テハ目代、其裁判所ノ法章規式ノ施行ヲ監ス若シ法章規式ニ付テ注

意スヘキコトアル時ハ各目代ヨリ本裁判所長官ニ申シ長官ハ合員會議ヲ行ヒ議ヲ決ス大目代ハ議案及ヒ議決ノ寫本ヲ司法執政ニ進ム

一 大目代及目代ハ裁判官裁判ノ議事ニ參スルコトナレ但シ裁判ノ課務及規則ノ事ニ係テハ裁判官ヨリ乞テ議ニ參セシメ或ハ目代ヨリ求メテ議ヲ開ク

一 凡ソ法學登第ノ人ニ非サレバ目代タルコトヲ得ズ歳二十五以上ニ非サレハ目代タルコトヲ得ズ二十以上ニ非サレハ補負タルコトヲ得ズ三十以上ニ非サレハ大目代タルコトヲ得ズ二十七以上ニ非サレハ大代言官及大目代補負タルコトヲ得ズ

一 凡ソ目代ニ任スル者ハ宣誓式及就任式ヲ行フノ後ニ非
レハ官事ヲ行フコトヲ得ズ

一 目代ヲ任スルニハ本屬上等裁判所長官及大目代ヨリ各
三人ノ名ヲ呈シ司法執政其中一人ヲ撰フ 大目代ハ此
例ニ在ラズ

一 大目代目代ノ任免ハ司法執政之ヲ奏執シテ國主ノ宣命
ヲ行下ス

按スルニ佛國通俗裁判官及目代ヲ稱シテ共ニ法官ト
ナス蓋シ同ク訟獄ニ參シ其資俸相比均シ衣裝亦同シ
而シテ任除ノ間往々目代ヨリ轉墜シテ裁判官トナル
但タ其職務判然相懸隔スル者ニ至テハ裁判官ハ政府

ニ屬セス終身不羈ノ權ヲ有シ繼令ニ政府ノ更革アル
所從テ裁判官ヲ易フルコトナシ目代ハ則チ政府ノ人ヲ
以テ政府ノ命ヲ奉行シ進退廢舉政府ノ意ニ任シ政府
更迭アレハ從テ舊官皆僱レ新人之ニ代ルコト諸省執政
書記ト異ナルコトナシ余輩巴里府ニ在ルノ日方ニ共和
ニ屬ス魯那破倫氏使任セシ所ノ目代一時皆廢シテ閑
地ニ在リ

大目代 二十八員 現今ニ
十六員 俸給控訴裁判所長官ニ同シ
巴里府二万五千布蘭
其它二万布蘭以下

一 所管内目代諸員ヲ管督シテ檢務ヲ行ハシメ司法執政ノ令ヲ行下シ執政下ス所ノ廻章ヲ各員ニ布下ス

一 目代諸員ノ違律ハ下等裁判所ヨリ本屬控訴裁判所長官及大目代ニ報知シ大目代規戒ヲ加ヘ又之ヲ司法執政ニ具上ス執政更ニ其情重キヲ料ルキハ或ハ面召シテ狀ヲ問ヒ或ハ大目代ヲシテ譴責セシム 違律ハ犯罪ト同カラス

一 本裁判所ノ大代言官及ヒ輔員ヲ總ヘ其分課ヲ科シ通常庶務ヲ管理シ自ラ訟廷ニ出頭スルコトナシ但臨時見ル所アレハ隨意ニ自ラ出頭スルコトヲ得

一 大代言官ハ大目代ノ名代トシテ詔廷ニ出頭シ訟事ヲ行

フ者トス其重要事件ハ訟廷開クルノ前意見ヲ豫構シ之ヲ大目代ニ申達シ大目代其意ニ同セザルキハ目代局合員會議ヲ行ヒ衆說ヲ以テ決ヲ取ル若シ兩議平分シテ一決スベカラザルキハ大目代ノ說ヲ以テ決トス又大目代ト衆說ト相違フ時ハ 衆甲ヲ直トシ大目代乙ヲ直トスルカ如シ 大目代自ラ訟廷ニ出頭シ其說ヲ以テ意見ヲ述ルコトヲ得但シ衆說ニ違フテ大代言官ヲ強ユルコトヲ得ズ

一 何事ニ拘ハラズ大目代ハ大代言官ニ訟廷意見ノ申達ヲ求ムルコトヲ得

一 毎年ノ初メ始メテ控訴裁判廷ヲ開クノ後會禮ヲ行ヒ大

目代坐ニ登リ前年執行シタル裁判ノ状景ヲ總説シ庶務ノ弊事ヲ條具シ裁判所法則及法士ノ規律ヲ陳論シ又前年死去シタル法士ノ才行ヲ頌贊ス上等裁判所ハ為ニ合員會議ヲ行ヒ大目代論スル所ノ可否ヲ判ス大目代其論説ノ寫本并ニ裁判所批判ノ寫本各一通ヲ司法執政ニ進ム

一 訟務諸士ノ違律ヲ科責スルハ裁判官ノ權ニ在リト虽モ大目代ハ科責ノ判文ニ批評ヲ加ヘ司法執政ニ具上シ執政或ハ其官ヲ免シ或ハ被責人ノ上告ヲ調理スルニ供フ下等裁判所ニ在テハ目代其判文ヲ所屬ノ大目代ニ上報

シ大目代批評ヲ加ヘ之ヲ司法執政ニ進上ス訟務士ハ代人書記人使部ノ總稱○訟務士ノ違律ヲ覺知スルハ裁判官自ラ之ヲ監視或ハ目代若クハ訴人ノ之ヲ訴フルニ由ル一 裁判官ノ違律ヲ科責スルハ各裁判所適次ニ其權ヲ有ス但シ目代官ノ意見狀ヲ取ルノ後ニ非サレハ論決セズ其論決スル毎ニ大目代之ヲ司法執政ニ具上シ停職罰俸ニ係ル者ハ執政ノ同意ヲ待テ後ニ施行ス裁判官ノ違律ヲ覺之ヲ監視或ハ目代之ヲ訴フ先ツ知ル者先ツ言ナリ一 官吏罪ヲ犯シ法ニ於テ大審院參議院民議院ノ許可ヲ得ルニアラザレハ追糺スルヲ得ザル者ハ執政大臣ハ民議院ノ許可ヲ待テ及目代上等裁判所裁判官及目代ハ大審院ノ許可ヲ待ツ

大目代ヨリ司法執政ニ上申シ司法執政ノ處分ヲ待ツ

按スルニ以上事件ノ如キ凡ソ事ノ司法執政ニ上申ス

ル者ハ皆大目代之ヲ為ス蓋シ裁判官ハ通常司法執政

ト往復關預スルヲ無シ其司法執政裁判事務ニ所見ア

レハ亦大目代ヲ指揮シテ裁判官ノ處分ヲ求ノシム目

ヲ裁判官ニ教令スルヲ得ズ裁判官不羈ノ体制ヲ保

存スル所以ナリ但シ大目代違律ノ事アレハ上等裁判

法執政ト上等裁判官ト直涉ノ事件トス

一大目代毎四月九月訟獄表ヲ司法執政ニ上ル前半訟獄

ノ數未決ノ數未決滞訟ノ原由ヲ録ス對訟三月以上決セ

サル者訴答往後訟四月以上決セザルモノヲ滞訟トス

下等裁判所ノ目代ハ四月九月ノ初周間ニ各所訟獄表ヲ

本管ノ大目代ニ送り大目代批文ヲ加ヘテ之ヲ司法執政

ニ遞上ス

一凡ソ裁判宣告シタル者逐日編テ一紙トシ書記之廿四時

内ニ裁判局長及書記毎件署名スルヲ法トス若シ法ノ如

クナラザルヲアルハ大目代之ヲ本裁判所首長官ニ訴

ハ首長官情ヲ問ヒ大目代ノ意見ヲ取り裁判局長ヲ召シ

追テ署名スルヲ許ス下等裁判所ニ於テモ亦目代之ヲ

本管上等裁判所ニ訴ハ首長官大目代ノ意見ヲ取ルヲ上

ニ同シ

一大目代不在者クハ故障アルキハ大代言官年資尤モ高キ者之ヲ代理ス

○大代言官 人負控訴裁判所分局ノ多少ニ從ヒ每局各一

但シ重罪檢入查局ヲ除ク俸給上等裁判官ニ同シ下○大代言官ハ即チ大目代ノ副員ニシテ亦檢職ノ一名タルニ過キス尋常代官人ト混視スベカラズ

一大目代ニ代リ訟廷ニ出頭ス

一大代言官意見ヲ述フルニハ其見ル處ヲ以テレ一々之ヲ

大目代ニ承ルニヲラズ但シ重難事件ハ大目代ニ申達ス

○大目代補助 巴里府控訴裁判所六人其它大抵二人ヲ以

テ常トス俸給一万布蘭

一通常大目代局内ノ庶務ヲ輔佐シ時アリテ訟廷ニ出頭ス

○目代 下等裁判每所各一人俸給下等裁判長官ニ同シ五千布蘭以下

一目代輔員ノ各課ヲ分科シ又臨時ニ自ラ各課ノ事ヲ行フヲ得

一目代不在或ハ故障アルキハ輔員ノ中年資尤モ高キ者之ヲ代理ス但シ輔員中專ラ司法警察ノ事輔員亦在ラザルニ任スル者ハ代理ニ當ラズ

其ハ裁判所ノ命ヲ以テ裁判官一人之ヲ代理ス

○目代補助 巴里府十二人其它五人ヨリ二人ニ至ル均カ

ラズ俸給下等裁判官ニ同シ八千布蘭以上ニ
千四百布蘭以上

一 輔員二人アレハ其一人訟廷ノ務ニ當リ一人司法警察ノ
務ニ當ル巴里府輔員十二人其六人司法警察ヲ行ヒ各區

ニ出張シテ事ヲ執ル

一 司法警察課ノ輔員故障ノ時ハ其裁判所同管内ニアル所
ノ鄰區ノ輔員之ヲ代理ス若シ鄰區ノ輔員アラザルハ
目代自ラ其事ヲ行ヒ或ハ它ノ輔員ヲ派ス

上等裁判所長 下等裁判所長

裁判官 裁判官

司法執政 大目代 目代

大代言官 目代補助

大目代補助

司法警察

司法警察一譯檢察今司法警察ノ名
已ニ熟スルヲ以テ仍テ之ヲ用ス

目代ハ司法警察ノ事ヲ管轄シ各郡裁判所ノ傍ニ目代局アリテ目代之ニ出張シ或ハ郡裁判所ノ管内分テ幾區トシ各區ニ出張メ其ノ郡中ノ輕重罪犯ノ告訴告發ヲ受ク其郡中

保安法官、備警兵士官、邑長、警察使ハ、目代ト同ク、其各管内ノ告訴告發ヲ受ク、稱シテ目代ノ補助トナス、保安法官ハ、裁兵士官ハ、兵部ニ屬シ、邑長及警察使ハ、地方ニ屬スル者ニシテ、皆目代ノ管轄官員ニ非ス、但司法警察ノ務ニ於テ、目代ヲ助ケテ行ス、故ニ稱シ目代ノ外、更ニ目代ノ補助アル所以ノ者ハ、罪犯方ニ發スルノ初ニ於テ、檢探誤ラザルヲ欲スルナリ、但シ上ノ諸官吏、告訴告發ヲ受タルキハ、遲延ナク之ヲ目代ニ傳送スルヲ要ス、

宅人ノ罪犯ノ為メニ、其害ヲ受ケタル者ハ、目代若クハ宅ノ司法警察官吏ニ告訴スルヲ得、罪犯ヲ發見セシ者ハ、目代若クハ宅ノ司法警察官吏ニ報知スルヲ要ス、之ヲ報知スル

告人タル目代ハ、其ノ告訴告發ヲ得、慎重ニ其状ヲ按檢シ、若シ其事法章ニ觸ル、ニ至ラザル者ハ、和改ノ類退ケテ糾治セバ、不正ノ行ヒ、法章ニ觸レザル者ハ、民法ヲ以テ訟ルヲ得、其至輕ニメ、違警罪ニ止マル者ハ、速ニ警察裁判所ニ送付シ、其輕罪ハ、懲治裁判所ニ送付シテ、裁判ヲ求メ、其重罪タルヲ思量スル時ハ、之ヲ糾問法官ニ付シテ、更ニ糾治ノ方法ヲ盡サシム、輕罪亦時狀ニ因リ、糾問法官ト同ク、司法警察ノ事ヲ行フト、雖モ其非現行罪ニ於テハ、權任區分アリテ、相侵サズ、現行罪犯ニ至テハ、目代ト糾問法官ト互ニ其務ヲ相兼ヌルヲ得、凡ソ現行罪犯アレハ、目代糾問法官保安

法官、備警兵士官、邑長、警察使ヲ論ゼズ先ツ其報知ヲ得タル者直チニ當場ニ至リ、被告人ヲ勾住喚問シ、事状ヲ驗檢シ、見証人ノ陳述ヲ聽キ、兇器物件ヲ扣收シ、諸科エラレテ徵驗セシメ、明細書及証人口書ヲ作ル、即チ紀問法官ノ務ヲナス

公訴

罪犯輕罪ニ屬スル時ハ、其ノ事情重難ナル者ハ、更ニ紀問法官ヲ經由シ糾治スルヲ除クノ外、目代ヨリ明細書及書類物件ヲ懲治裁判所ニ送り、對理ノ期ヲ得、期ニ先ツ一三日前ニ中庭ニ取映テ被告人ニ下付シ、又証人ノ姓名ヲ送り、同ク喚召ヲ付ス、其現行罪犯ハ、本日或ハ翼日、直チニ裁判所ニ送ル

期ニ至リ目代訟廷ニ出頭シ、其明細書報知狀ハ書記官之ヲ宣讀シ、被告人若クハ其代言人答辯ヲ述フルノ後、目代罪狀ヲ總説メ刑法何條ニ依リ罪ヲ科センコトヲ求ム、終リニ被告人若クハ其代言人再ヒ答辯スルコトヲ得其後裁判官之ヲ裁斷ス、其裁判ニ服セズハ、上等裁判所ニ覆訴スル者ニ等裁判所ヨリ、其書類ヲ傳ヘテ覆訴ヲ理スル所ノ上等裁判所ニ大目代被告人ト事犯紀問法官ニ經由シ糾治シタル者其事證已ニ具ハル時紀問法官、其書類ヲ目代ニ傳ヘ、目代ノ意見ヲ取ル目代其重罪タルコトヲ思量スル時ハ、之ヲ上等裁判所ニ送ルコトヲ求ム、其輕罪ハ懲治裁判所ニ送ルコトヲ求ム、輕罪ノ禁獄

ニ至ラザル者ハ、其拘留ヲ解クヲ求ム、其違警罪ニ止マル者ハ、警察裁判所ニ送ルヲ求ム若シ其ノ無罪ナル者、若クハ一ノ証憑ナキ者ハ、被告人ヲ解放スルヲ求ム、此時、目代ヨリ、紀問法官ニ送ルノ意見状、乃チ紀問法官罪犯ノ有無輕重ニ從ヒ、各裁判所ニ送付シ、或ハ解放スル判決ノ按揭タリ
 已ニ紀問法官ノ判決ヲ得テ、目代之ヲ施行シ、其ノ重罪ハ、目代其書類罪状明細書糾治供状証人口書紀問法官判決等ヲ上等裁判所大目代ニ送達シ、大目代重罪原告人タルノ任ニ當ルニ供入是ニ至テ、目代ノ務終ル、是ヨリノ後、乃チ大目代ノ務トス重罪犯已ニ上等裁判所ノ大目代ニ送付シ、上等裁判所ノ大目代ハ、十日限

内ニ其書類ヲ檢密シテ、求論重罪ノ請牒ヲ作ル、重罪檢査局ノ裁判官、會ヲ開イテ、其事犯罪メ重罪ヲ以テ推治スヘキ乎否ヤヲ論議スルノ日、大目代先ツ進テ求論重罪ノ請牒及書類ヲ捧ル書記之ヲ宣讀スルノ後、大目代書記ト共ニ會議室ヲ退キ、空閑テ、裁判官論判ス、裁判官其重罪タルノ証憑具ハルヲ判定スル時ハ、即チ其事ヲ會審院ニ送り、及被告人ヲ會審院ノ監倉ニ移スヲ命ス、從テ大目代論告状ヲ作り、書記ヲシテ重罪檢査局ノ判決及其論告状ヲ拘留ニ在ル被告人ニ傳示セシメ、已ニ傳示セシヨリ二十四時間ニ、指揮シテ被告人ヲ重罪監倉ニ移スヲ施行ス、入同時ニ於テ、書類重

檢査局判狀論告狀罪狀明細及証憑物件ヲ會審院ノ書記局
書紀治供狀及其他証憑書類ニ移付セシム論告狀ハ罪狀及輕重事情ヲ叙録ス即チ大目
代重罪被告人ヲ原告シテ會審院ニ裁_ニ求ムルノ公狀會審
官事狀ヲ推問スルノ按揭タリ會審院即
重罪裁判ヲ開ク前司法執政ヨリ裁判官及大目代ニ掛
命シ若クハ其他ノ目代命ヲ受ケ大目代ニ代理ス開會ノ日
大目代被告人ノ對向ニ在リ書記官論告狀ヲ讀ミ被告人証
人推明ノ後裁判官大目代ヲ揖シ大目代乃チ陪審ニ向ヒ坐
ヲ起テ告訴ノ音ヲ歷陳シ罪狀ヲ敷ヘ衆ノ為ニ惡ヲ除クノ
意ヲ盡ス次ニ被告代官人之ニ答辯シ亦陪審ニ向ヒ委曲保

護ノ方法ヲ盡ス其後裁判官陪審ニ問目ヲ下シ陪審其有罪
ヲ判スル時ハ從テ大目代刑法何々條ニ依リ被告人ヲ科罰
セシ_テヲ求ム裁判官議判宣告ヲ
宣告ノ後三日ノ内ニ上告セサル者ハ大目代指揮シテ刑ヲ
行ハ行刑ノ際若シ事難アレハ臨時兵力ヲ借ル_ヲ得_{裁判官ハ}
行刑_ニ預_ルス其海外苦役ハ海軍省ニ附シ徒役禁獄ハ内務省ニ
附スルニ至テ目代ノ務終ル若シ赦典ヲ乞フ者ハ大目代ヲ
經由シ司法執政ニ奏達ス亦_ニ裁判官之_ニ預_ルセ_ス
刑事ニ於テ目代原告タリ犯人被告タリ猶_{民事ノ}原被告兩造
アルト異ナル_ヲナシ故ニ覆訴上告ハ目代ト犯人ト共ニ其

權ヲ有シ若シ裁判ノ失出入ニ服セザル時ハ即チ之ヲ覆訴
スルヲ得裁判官聽斷法式ニ依ラザル者アルニ至テ目代
及犯人共ニ上告スルヲ得ルヲ互ニ相異ナルヲナシ覆訴
上告
ハ裁判所ノ書記局ニ申告スルヲ法トス目代ヲ經由スルニ
非ス但シ已ニ覆訴上告ノ申告アル時ハ其裁判ヲナセル裁
判所ノ目代或ハ大目代ヨリ其覆訴上告ヲ受ケ
タル裁判所ノ大目代ニ書類ヲ送遞スル而已

民事

佛國ニ於テ目代ハ刑事ニ於テ衆ニ代ルノ原告人トシテ常ニ
重大ノ務ヲ行フト虽モ其ノ民事ニ於テハ大抵一ノ連班人
タルニ過キザルノミ

目代ノ民事ニ於ケル勸解裁判及ヒ商事裁判ヲ除クノ外訟

廷ニ連班シ目代連班セザレハ裁判ヲ行フヲ得ズト虽モ
其原被ノ間ニ居中メ曲直ノ意見ヲ述フルハ其意ノ好ハ所
ニ從ヒ強チニ每事發言スルノ義務アルニ非ス故ニ實際ニ
於テ發言スルヲ甚々稀ナリ

但テ特例數事ニ於テ必ス其發言ヲ要スル者アリ訴訟法ハ
十三條ニ載スル所政府官地縣邑及諸公館病院施濟
院ノ類ニ係ル
ノ訟ハ其公事ノ故ヲ以テシ貧民施濟物ノ訟ハ貧民ヲ助ケ
ルノ故ヲ以テシ身分ニ係ルノ訟及其子ヲ認セズ夫
婦別居ノ訟ノ類後見ノ
訟ハ其事倫族ニ係ルノ故ヲ以テシ裁判管權ノ訟裁判官嫌
情阻障ノ訟裁判官枉法ノ訟ハ其事法官ニ係ルノ故ヲ以テ

レ婦女幼弱及失踪人ノ訟ハ其ノ保護ヲ要スルノ故ヲ以テ
レ共ニ目代其ノ訴訟ニ關係ス、原被ニ拘必ス意見ヲ述ヘガ
ルヲ得ズ、以上數事ハ裁判長官自ラ之ヲ聽理スルヲ以
テ法トス亦其事重大ナルノ故ヲ以テナリ、此
時ハ對訟期日ヨリ中空三日前ニ、實際ニ於テ大抵
入ヨリ書類ヲ目代ニ呈シ、檢閱ニ供ス、通條事件ニ於テハ目
是レ其ノ定則タリ、然ルニ實條ニ在テ大抵目代我レ裁判
官ノ慎重ニ信委スト云テ止ハニ過キザルノミ

按スルニ、目代ノ民事ニ於ルハ、強クニ必要ナリトセズ、
故ニ普魯社ハ、裁判制度事々佛蘭西ニ模倣スト、或モ目
代ヲメ通常民事ニ連班セシムルヲナク、獨リ夫婦ノ訟

ニ在テ、訟廷ニ班シ、意見ヲ述フルノミ、普魯社ノ大代言
官フレイイ氏ノ言ニ曰、余巴里ニ在リテ、民訟ヲ觀ルガ
トニ、目代意見ヲ陳論スルノ間、裁判官或ハ倦睡ノ聞カ
ズ、或ハ新聞紙ヲ讀テ困ヲ遣ルヲ觀タリト、是普魯社ノ
目代民事連班ヲ廢セル所以ナリ、故ニ普魯社ニ於テ、目
代職負簡少ニメ、繁冗ノ弊ナシト云、
レオニセバル氏ノ
普魯社裁判制度考
ルニ据

各國目代制

目代ノ職制ハ、佛蘭西ニ始マリ、歐洲諸國、漸次之ニ倣ヘリ、伯
耳義、荷蘭、陀意、太利ノ三國ハ、佛蘭西ト異ナルヲ無ク、西班牙

ハ、其ノ務ノ混雜シテ、或ハ民事ノ代言人トナリ、或ハ刑事裁判官ノ事ヲ行フ者アリ、英吉利ニ於テハ、猶目代ノ設アラズ、刑事告訴別ニ定職ナク、被害ノ民、人々自ラ訴ルヲ得、但罪ヲ訴ルノ原告者ナク、而メ其事犯世治ヲ害スル者ハ、大陪審アリテ、國王ノ為ニ檢探ヲ行ヒ、又大代言官アリテ、國王ノ為ニ代訟シ、凡ソ王位ヲ侵シ、及ヒ世治ヲ害スル者ハ、即國之ヲ檢探スルノ責ニ任スルノミ、然ルニ蘇格蘭ニ於テハ、英ノ一部セヒブリツク、プロセクト名クル者、國王ノ上等代言人ヲ以テ刑事ノ追糾ヲ行ヒ、佛蘭西ノ目代ト、大抵異ナルナリ、日耳曼諸邦ニ於テハ、法吏、殘苛風ヲ成シ、檢探ノ權、久シク裁

判官ニ屬シタリシニ、近時、始メテ目代ノ制ヲ設ケ、罪ヲ追スル一平ヲ持セシメタリ、

普魯社ノ裁判構成ハ、多ク佛蘭西ヲ模倣シ、大抵異同ナシ、但佛蘭西ハ、百事繁盛ヲ尚ヒ、官吏冗雜ハ弊ナキト能ハス、普魯西ハ、佛蘭西ニ取レルハ、大抵其ノ華ヲ削テ、簡實ニ從ヘリ、其都府繁劇ノ地ノ上等裁判所ヲ除クノ外、一ノ裁判所ゴトニ、一目代アルニ過キス、其補負ト稱スル者ハ、則チ目代本負ナキ裁判所ニ於テ、其事ヲ代行スル者ニメ、佛蘭西ノ本負補負同、一所ニ在ルカ如キニアラズ、時トシテハ、上等裁判所ノ大目代、其管下ノ下等裁判所目代ノ事ヲ兼行スル者アルニ至

ル又目代一負病障アレバ、鄰管ノ目代之ヲ代理ス、鄰管ノ目代亦病障アレバ、裁判長官ノ指揮ヲ以テ、裁判官之ヲ代行ス、蓋現今千八百七十年ニ據ル普魯西全國下等裁判所ハ、數計二百四十ニシテ、目代及補負百七十二人ニ過キ、其ノ故目代民事二千預セザルノ佛蘭西ト異ナルニ由ルノミナラズ、亦其ノ百事簡儉ニシテ、佛蘭西ノ事ナキニ官ヲ設ケ、其ノ官ニ居ル者モ往々優游日ヲ消スルカ如キニ非ルヲ以テナリ、其便宜方法何如ト問フニ至テ、目代ノ附屬ニ多少ノ吏員アリテ、簿書傳報ニ任シ、凡ソ佛蘭西ニ於テ目代為ル所ノ雜務、皆吏員之ヲ為シ、而メ其ハ吏員タル者一時傭作ハ、類利達ハ求ハ、

ル者ニ非ス冗儉ハ間相去ルト何如乎巴里府代官人製ハ此氏普魯西裁判制考大審院及上等裁判所ニ大目代一負、其ノ事繁ナルノ地ハ、補負ヲ置ク、上等裁判所ノ大目代ハ其所管ノ目代ヲ監督シ、紀律ヲ糾シ、二年ニ一次以上之ヲ檢査ス、便宜管下ノ下等裁判所ニ出張シ事ヲ執ル、其意ニ隨フ、各重罪裁判及各府縣裁判要劇ノ地ニ、目代一負、其它ハ補負一負ヲ置ク、補負ハ本負ノ監督ヲ受ク、毎年ノ終ニ、各目代其所屬ノ大目代ニ本年裁判ノ公報ヲ進ム、其ノ下、警察使アリ、稟シテ邑長之ヲ兼テ、警察罪ニ付キ檢職ノ事ヲ行フ、大抵佛蘭西ニ同シ、
大審院目代ヲランレ氏ニ據ル

大審院ニ屬スル大目代一人大代言官即大目代六人大目代
ハ大審院一切ノ檢務ニ任シ上等裁判所大目代ノ所管各裁
判所目代ヲ總フルカ如クナラ
ズ各大代言官ニ事務ヲ配附擔任セシム大目代在ラザルキ
ハ大代言官年資尤モ高キ者之ヲ代理ス

大審院ハ法律ノ統一ヲ監スルノ任ニ居ル故ニ大審院ノ大
目代ハ亦主トメ法律ヲ護スルニ任ス蓋シ大審院ノ上告民
刑トナク其原被ニ出ル者ハ已ニ上告シタルノ後開廷ノ前
ニ本院裁判長官ヨリ文案ヲ大目代ニ移シ大目代ハ直チニ
之ヲ大代言官中一員ニ委シ大代言官ハ速ニ意見ヲ豫構シ
テ後文案ヲ廻附ス開廷ノ日大代言官ハ意見ヲ述ヘ裁判官

之ヲ判ス是ヲ常例トス但モ法律規程ヲ破ルノ終審裁判ニ
シテ或ハ原被ヨリ上告セザル者アリ此場合ニ於テハ大
目代公利ヲ護スル為ニ原被上告期限盡ノ後ニ原被ノ沈黙
ニ拘ラズ自ラ職權ヲ以テシ法ニ代テ本院ニ訴ヘ本院其當
否ヲ裁ス其大目代ノ訴ニ依リ原裁判ヲ破毀スル者其刑法
ニ係リ處刑重ヲ改メ輕ニ就クベキハ之ヲ改正スルヲ除ク
外裁判ノ執行ハ一ニ原裁判ニ依リ原被入ハ破毀ノ利益ヲ
受クルヲナシ又審廳越權ノ事アレハ民刑ヲ論セズ司法卿
ノ告發ニ由リ大目代ハ原被上告期限内外ニ拘ラズ又初審
終審ニ拘ラズ之ヲ本院ニ訴ヘ法ノ為ニ破毀ヲ求ム其原

被入二千涉セザル上ニ同レ

第四章

○ 代言人總論

字國十七百十三年七月二十一日ノ勅令ニ曰ク、代言人代書
 人ノ員數我國ニ於テ此ノ如ク増加シタルハ明カニ一ノ多
 事ヲ成セリ、其ノ自ラ義務ヲ知ル者ノ如キハ、僅々ニ止ルノ
 事、薄行無頼ノ徒少時教學無ク壯ニシテ常職無ク遽カニ代
 言ノ業ヲ行ヒ勢熱心ヲ以テ詞訟ヲ求索セザルヲ得ズ以
 テ至ル所ニ紛争構言ヲ煽揚スルニ至ルナリト、此言甚々悉
 セリ、物固ヨリ名正シク觀美ニシテ、而メ其實作弊ニ堪エザ
 ルモノアリ、抑代言ヲ禁セン歟、孤兒嫠婦獨ノ哀ムベキ

アリ冤屈ノ伸ビザルアリ代言ノ業止ムヘシト雖モ安ンヅ
 代入ノ權ヲ制セン面ヲ換ヘ形ヲ變シ前門扉退イテ後門狼
 狽ヲ加フルニ各邦往來私訟織ルカ如シ我レ獨リ古道ヲ守
 リ朴素ヲ尚フモ辨訟良カラズ立証後ニ墜ツ歩ヲ讓リ澤ニ
 陥リ敗局ヲ得テ以テ墜カザルノ辱ヲ招ク者往々ニシテア
 リ是レ寧ロ代言ヲ誘フモ以テ代言ヲ抑フヘカラザルナリ
 寺佛諸國ノ代言人ニ於ケル通塞屢變シテ而シテ之ヲ保シ
 之ヲ存スルヲ以テ終フ、蓋シ己ムヲ得ザルモノアリ佛國代
 書代言兩職ヲ設ケ代書人ハ官ニ屬シ凡ソ詞訟ハ必ス代書
 人ニ由リ代理セシム、私ニ它ノ代人ヲ用ノルコトヲ得ズ而シ

テ重罪被告入ヲ除ク外代言人免許ヲ得タル者ニ非スシテ
 親戚朋友ヲ以テ代言スルコトヲ得ズ乃チ代人假冒ノ弊ヲ防
 ク所以ナリ寺國ハ代言人即チ代書人ヲ兼ネ仍ホ審院羈繫
 ノ下ニ在リ英佛二國ニ比スレハ束縛ヲ免レズト雖モ蓋亦
 各邦ノ便宜ニ從フナリ要スルニ其選ヲ重シ其紀律ヲ設ケ
 其体面ヲ護シ其榮譽ヲ崇ヒ以テ代言社ヲシテ清流ノ中ニ
 在ラシム夫レ清流代言社ヲ盛火ヲ加ヘシムルハ即チ曲
 小假冒捏造姦詐ノ弊ヲ破ル所以ナリ

寺國代言人 レオンデバル氏
寺曹西裁判制度考

寺國ニ於テ代言人ノ設ケハ百年來頗ル通塞兩様ノ奇怪ナル

變革ヲ經タリ是ヨリ先キ羅馬ノ法律行ハレシヨリ代書人
 及代書人ノ職務ヲ舉ケ原告人ノ名代ハ代書人ニ屬シ其辨
 護ハ代書人ニ屬シタリレニ未タ幾ハクナラス代書人ノ負
 數盛ニ増加シ公明ヲ以テ審司ヲ協賛スルノ本職ヲ愆リ名
 ニ倚リ勢ニ藉リ詐偽捏造後々廉恥ナク以テ人民ノ公害衙
 門ノ梗敵トナリ悉ヲ援ケ茲ヲ長シ百方詞訟ヲ遲延スルニ
 至リ正ニ佛國現今ノ狀ノ如シ千七百十三年七月二十一日
 ノ勅書其弊害ヲ痛言シタリ千七百二十五年四月十六日ノ
 勅書ハ代書人ヲ廢シ之ヲ代書人ニ合セタリフレデリクニ
 世猛ニ司法ノ職制訴訟ノ方法ヲ變更シ其言ニ曰代書人ハ

欠ク可カラザルハ物我將タ之ヲ存セン但シ此ノ如キ類弊
 ハ社員ニ於テ常ニ痛切ナル改正ヲ要スト而シテ其旨ヲ達
 スル為ニ假借スル所ナシ代書人專業ノ志ナク徒ニ訟言ヲ
 煽起シテ世ノ貪婪タル者ヲ舉テ一筆ニ廢棄シ嗣來代書者
 タルニハ才能ノ檢査ヲ要シ其負數ヲ限リ其職務ヲ制限シ
 稅ヲ設ケテ不實ノ利益ヲ減シ其精勉ヲ勸ムル為ニ詞訟完
 結ニ至ルノ前ニ謝金ヲ受ルヲ禁シタリ然ルニ訴訟ノ方
 法未タ良全ナラス變更ノ本旨實際其目的ニ達スルコト能
 ハス訟事舊ニ仍テ遲滯シ運行捷速ナラサリシヲフレテリ
 クニ世猶ホ其因由ヲ代書人ノ作弊ニ歸シ千七百八十年四

月十四日ノ閣令ヲ以テ百餘年來存スル所ノ元理ヲ顛覆シ
 代言者ノ職業ヲ廢シ凡ソ訴訟ハ直ニ裁判官ニ告訴シ裁判
 官詞訟ヲ領引シ事跡ヲ探糺証明スルニ任シタリ然ルニ蒙
 昧ノ訴訟人ニ价助辯護ヲ失ハザラシムル為ニ代言人ニ易
 ハ裁判所ニ附スルニコトイハレタマ補助官ヲ以テモリ補助官ハ訴訟人ヨ
 リ謝金ヲ受ケズコトイハレタマ代言人ノ類ニ非ス審官ヲ補助叶賛シ專ラ
 裁判ノ公實ヲ務メ訴訟人ノ利益ヲ以テ目的トスルヲ無ラ
 レメ而シテ各訴訟人ニハ法官其職權ノ以テ之ヲ配附シタ
 リ然ルニ此ノ變革モ亦實際ニ行レ難ク未タ幾ハクナラス
 千七百八十二年三月十九日ノ閣令ヲ以テ裁判所ヨリ補助

官ヲ附スルユトフ廢シ訴訟人ヲシテ隨意ニ其辯護人ヲ選
 ハシメ又千七百八十三年十一月二十日ノ閣令ヲ以テ補助
 官ヲ廢シ裁判代人ノ名ヲ以テ再ヒ代言人ヲ存シタリ然ル
 ニ政府ハ再タヒ代言人ニ對シテ千七百年代司法變革ノ主
 意タル自來代言人ト結テ解ケガルノ抗論ヲ起シ千七百九
 十三年ノ勅書ヲ以テ嗣後親衛ノ軍官ニ依頼シテ國主ニ詞
 訟ノ公案或ハ赦免ノ請乞ヲ上呈セシムル代言人ハ犬畜ニ
 伍シ絞ニ處シテ赦ササルヘシトノ嚴令ヲ下レタリ其明年
 司法改革ノ勅書ニ裁判代人ノ職務ヲ下等ノ屬ニ置キ其實
 ハ訴訟ノ代理人ニ非シテ裁判官ノ補助人トセリ

千八百四十六年七月二十一日、法律舊訴訟法ヲ廢シ對理ノ準序ヲ更正シ裁判代人稍ヤ上級ニ置クト雖トモ仍亦裁判官之ヲ統理シ而シテ訴訟人ハ必スシモ裁判代人ニ由ルヲ要セス直チニ申告スルコトヲ得セシメ千八百四十九年一月三日ノ勅書ニ至テ現今代言人ノ構制ヲ定メタリ

守國ノ代言人ハ法律代人ト稱シ其久シク職ニ在テ器能衆ニ超ル者ハ司法宰相名ヲ薦メ國王之ニ裁判評事ノ稱ヲ授ク

守國ノ代言人ハ不羈自由ノ者ニ非スシテ政府ノ官吏タリ其司法宰相ヨリ叙任ヲ受ケ國王ニ誠忠ナルハキノ誓ヲ宣

フルコト一ニ法官ト同シ

初審裁判所控訴裁判所及最上裁判所各管人口ノ多寡事務ノ繁簡ニ從ヒ定數ノ代言人ヲ附ス代言人ノ務ハ特例ヲ除ク外其本屬裁判所ノ管内ニ限り他ノ裁判所ニ向テ訟ヲ行フヲ得ズ

守國ノ代言人ハ職務自由ニ任スルコト能ハス訴訟人ノ求アレハ之ヲ拒テ代言セザルコトヲ得ズ但シ不法不理若クハ惡意ノ造作ト信スル時及繁劇ニシテ餘力ナキ時及同一事件ニ付對訟人ヨリ更ニ委託ヲ受クル時ハ之ヲ辭スルコトヲ得ルノミ

代言人其ノ職務ヲ行フニ當テ慥昧輕率怠慢ヲ以テ犯ス所ノ過誤ニ由リ訴訟人ノ損害ヲ生スル時ハ賠償ノ責ヲ受ル
代言人ハ本屬裁判所長ノ許可ナク及代員ヲ得スレテ他行
スルコトヲ得ス

字國代言人ノ職掌ハ獨リ爭訟ノミナラズ兼テ不動産書入
質ノ事初告裁判所第一局承管事件ノ事遺物婚姻ノ結納等
即チ佛國ニテ証書人ニ任スル者其他親族及契約書ノ草案
ニ管スル事件裁判所ニ於テ保護スヤキ者
等ニ付キ相談人及代理人トナリ及凡ソ裁判所ニ呈スル所
ノ願書ヲ作ル此時ニ於テハ本屬裁判所ノ管下ニ限ルコ
トナレ

民事ノ詞訟ニ付テハ訴訟人ノ代理人トシテ代言人及代書
人ノ事ヲ兼テ訴訟ヲ領引レ訴狀ヲ作り又公庭ニ對質辯論
ス

刑事裁判所ニ付テハ專ラ被告人ノ為メニ辯論ス

總テ公判ニ干渉スル諸事ニ付テハ習業生附屬シテ代言人
ヲ補助スルコト佛國ノ代書人ニ同シ
代言人ハ其製スル所ノ一切文書ノ寫冊ヲ製シ若干時間之
ヲ貯存スルヲ要ス其他ニ箇ノ簿冊ヲ備ヘ其一ハ一切文書
及詞訟ノ節略ヲ録シ七行ニ分チ其六行ハ號數對訟ノ姓名
事件ノ概略訟事ノ價額委託本人ノ姓名裁判結着訟費ノ數

量ヲ登記シ其第七行ニ諸ノ叙説ヲ記セシム其一ハ兩部ニ
 分チ代言人相談人後見人代理人遺囑執行人等凡ソ委托本
 人ニ代リ交費及ヒ收領シタル出納ノ金目ヲ登記セシム
 代言人ハ委托人ノ為メ收領シタル金圓ニツキ責ニ任ス
 代言人ハ官吏ニシテ俸給ヲ受ケズ製スル所ノ文書ニ付キ
 規定ノ謝金ヲ受ケ委托人謝金ヲ納メサル時ハ公判ヲ仰ク
 ノ權アリ佛國ト同カラス
 禮會ニ於テ代言人ハ最モ新任ナル法官ノ後ニ班ス
 代言人ハ代書人ヲ兼ルノミナラズ又証書人ヲ兼ヌ蓋シ民
 口五千人ニ滿タザルノ都市ニ專任ノ証書人ナレ千八百六

十九年ニ在テ代言人總計千三百四十九人ノ内千二百七十
 人ハ証書人ノ職務ヲ兼ヌ其專任証書人ハ僅ニ五人ニ止マ
 ルノミ
 代言人及證書人ハ控訴裁判所ノ監督ヲ受ケ若疾病又ハ衰
 老シテ其職ヲ行フ能ハサル時ハ控訴裁判所檢事其辭任ヲ
 求而シテ六週日ノ内ニ辭表ヲ上ケザル時ハ最上裁判所ニ
 移告シ最上裁判所合負會議ニ於テ檢事ノ意見ヲ聞キ其解
 任ヲ評決スル時ハ司法宰相解任ヲ命シ更ニ後負ヲ任ス
 従前裁判所ニ於テ代言人ニ對シ紀律權ヲ行ヒシニ千八百
 四十七年四月三十日ノ令ヲ以テ佛國ニ儼ヒ榮譽會ヲ設ケ

タリ

榮譽會ハ代言人及證書人其職ニ負カス名譽品行ヲ損セザル為ニ之ヲ監督シ刑法ニ掲ケサル所ノ過失其職務ヲ敗リ紀律ヲ犯ス者ヲ科断ス紀律罪ハ榮譽會其權ヲ以テ問治シ或ハ檢察官又ハ控訴裁判所ノ告訴ニ依テ問治ス

榮譽會科スル所ノ紀律罪ハ誡諭、譴責、五百タール以下ノ罰金、禁職、是ナリ罰金ノ一部ヲ以テ司法官吏ノ寡婦孤子ノ救恤ニ備フ

榮譽會ノ科断ハ四週内ニ被告人或ハ檢察官ヨリ最上裁判所ニ上告スルヲ得

榮譽會ノ裁判偏倚ノ疑アリ或ハ告アリテ理セズ又ハ遲延

スルトキハ控訴裁判所ハ其裁判ヲ勾領スヘシ榮譽會ヨリ奪フテ自ラ之ヲ判スルヲ云

控訴裁判所々在ノ各地ニ一ノ榮譽會アリテ管下ノ代言人ヲ監ス

榮譽會ハ同管所属ノ代言人及證書人ノ總會ニ於テ裁判所長官上席シ投票多數ニ因テ選擇シタル人負六人乃至十人及補員四人ヲ以テ成ル六年一任トシ三年毎ニ其半ヲ改撰ス會長ハ三年一任會員ヨリ選任ス

最上裁判所々在地ノ代言人榮譽會ハ會員四人ト會長一人トヲ以テ成ル

千八百七十年宇國ニ於テ代言人証書人ノ總數計千三百六十二人ヲ得タリ

レオンダバル氏曰佛國ノ代言人ハ自由不羈ニシテ能言ニ其本心ヲ除ク外餘屬スル所ナシ特ニ本心ニ恭事セバト代言社ハ功利ノ會場首領ハ退地ナリ宇國ノ代言入ハ之ニ及シ其職制狭局ニメ恭謙方正學識アル士人ノ一學社タリ但一ノ自由ヲ欠クノミ今又平心ニ之ヲ論スルニ宇國ノ代言人ハ專ラ其精神勞力ヲ審判ノ事ニ輸ス佛國ノ代言社實徒々實際ハ能カラズ忠實誠悃ハ意ナク清流ノ職業ニ憑藉シテ以テ興望ヲ買ヒ

功利ハ階ヲ為ス者多キニ比セザルナリ

佛國司法三職考終

定價金三拾金

明治十一年二月十六日版權免許

全 三月出版

定價三拾金

熊本縣士族

編輯人

井上

毅

第六大區小六區

橫綱町二丁目九番地

東京府平民

出版人

須原鐵

二

第第一大區六小區

西河岸町十二番地

